不定期刊行　　第432号　2011.12.11

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

ヤズィックアグルの蒼い空 25　ホータン観光　その2

ラワック遺跡

ホータンの街角の風景

8月16日、下山してからの過酷なサバイバルレース、松田、久根の両人はなんとか復活したが、入れ替わるように今度は三戸呂君が倒れた。早朝7:50（新疆時間では5:50）にグリさんが列車でトルファンに向かうのを見送った。彼女にとっては初めての高山体験、加えて女性は一人だけという中で、不安も大きく精神的にも大変だったろうと思うが、彼女の存在は隊にあっては一輪の花といった趣でありがたかった。BC で何度も作ってくれたラグ麺の味も忘れられない。

朝食後、ヌルさんと今後の打ち合わせをし、同時にこれまでの精算について詰める。いろいろな部分で予想外の出費がかさみ、頭が痛い。例えば、カシュガルの董さんに依頼した隊荷だが、日本へ送るのには問題なかったと聞いて一安心だったが、送るに当たっては通常の航空便を使ったとのこと。結果、食糧など荷物が減ったにもかかわらず来る時より金額はかさんでしまった。往路は安くするために SAL 便を使ったが、そのあたりをきちんと詰めておかなかったのは失態だったが、後の祭りである。そのほかにも細かいところでいろいろな物が積み重なって当初予算をかなり超えてしまった。山では高度障害で、下界では金のことで、ずっと頭が痛みっぱなしである。

旅も終わりに近づくとこういった雑事やお土産のことなどで頭を悩まさずにはいられなくなるが、これも浮き世の常。帰国という現実が近づきつつあるのをひしひしと感ずる。

10:30 過ぎ、アイレットさんがやってきて、観光に案内してくれるという。こちらからのリクエストで、今年完成したホータン駅の見学と、これまで何度も来ていながらゆっくり見学したことのなかったホータン博物館へ連れて行ってもらうことにした。三戸呂君はホテルで沈没。佐藤君の姿

が見あたらない（彼は一人でバザールに行っていた）ので、やむなく別行動とした。博物館はあいにく閉館中だったが、なぜか特別に開けてもらうことができ、見学することができた。怪我の功名、貸し切り状態でゆっくりと見た。ホータンからニヤ、チャルクリクなど南新疆出土の文物が展示されており、なかなか見応えがあった。ホータン駅は市中心部から 6km ほど北にあったが、全く何もないところに駅を建設し、まっすぐな道を開けたというもの。一日一往復の列車発着時の他は閉鎖して中には入れない。のぞきこんでいるだけで、服務員が飛んできて注意された。以前訪れた青蔵鉄道の終着駅チベットラサもそうだったが･･･。「なんであんなばかでかいものを造る必要があるんだ！」と、松田さんがしきりに言っていたが、ここは中国。いまだに箱物が次から次へと造られ、「でっかいことがいいことだ」の精神に支配されているのだ。

ホテルに帰って、トンさんに託した荷物の航空運賃代金を送るために銀行へ出向いたが、玄関は閉ざされていた。時計は 13:07 を指している。表には午前の営業時間は 11:00 から 13:30 までとばかでかく書いてありながら平気でこの始末。このいい加減さもやはり中国。怒りより先に呆れるばかり。16:30 に再度出向いて手続きをするが、ただ両替をして送金をするだけなのに 30 分は優に時間をとられた。近代化にはまだまだほど遠い中国の実態だ。

その後は、隊員全員で最後のホータンブラブラ歩き。バザールまでの往復で、各自最後の買い物を楽しむ。お土産を買わねばと無理をして同行した三戸呂君だったが、途中どうしてもキジ撃ちが我慢できなくなったと戦線離脱、ホテルへと踵を返す。しかし、あとで町のそこここをよくよく見ると、街角の随所にトイレは整備されていて帰るまでもなかったことに気づかされた。10 年前のホータンは、街角でトイレを見つけるのは容易ではなかったのだが、その点では新疆も変わってきたものだと変なところで感心した。

ホータンでの最後の夕食はラグ麺とシシカバブ、ナン、スイカ。相も変わらず同じメニューとお思いかもしれないが、シンプルなこの食事、極めてホータンらしい食事で小生は大満足であった。ミネラル分の強い草を食べて育ったホータンの羊は新疆全域でもおいしいと評判が高い。その美味いシシカバブにビール、最後のホータンを堪能した。

8 月 17 日、ホータンを去る。今日も空はどんよりと曇り朝から雨交じりの天気である。昨日も終日曇りがちで夜は小雨がぱらついたが、今年のホータンは砂漠らしい抜けるような青空を見せてはくれなかった。初めてホータンを訪ねた 12 年前も雨に降られたが、その時町の人々がみんな喜んでいるのを見て、さすが砂漠の町と感動したものだ。しかし、来るたびにこうも毎回降られると、砂漠のイメージが根底から覆されてしまう。初めて来たときには年間降水量が 20mm とか言われ、その分が一気に降ったと聞いて何と貴重な体験をしたことかと喜んだものだが、最早雨が降っても驚かなくなってしまった。一方で、ホータンの町の印象で大きく変わったのは、やたらと警備が厳しくなった点だ。去年はほとんど感じなかったが、村々の入り口での検問、町を警備する武装警察と軍人の多さ。ヌルさんは、ホテルに休んでいる時、我々のことを聞きに警察が来たとも言っていた。そんな調子だから、ホータン空港でもちょっと緊張した。あらかじめ言われていたことは「GPS と衛星携帯は絶対に見つからないようにしてください。」とのことだったのでそのあたりの注意だけはしておいた。とはいえ、僕らだけにしつこく荷物検査をすることもあるまいと高をくくっていたのだが、実際の搭乗にあたっては、チェックインの際に靴まで脱がされることになろうとは思ってもいなかった。